

20. 傍副腎 Xanthogranuloma の一例

住 幸治 尾崎 裕 京極 伸介
新藤 昇 片山 仁

(順天堂大浦安病院・放)

症例は、60 歳男性、突然の発熱と左側腹部痛にて発症し、精査加療目的にて入院となった。CT, MR にて左副腎に接する腫瘍性病変を認め、副腎腫瘍との鑑別のため、副腎皮質シンチ (^{131}I -adosterol), 副腎髄質シンチ (^{131}I -MIBG), ガリウムシンチが施行された。CT, MR 所見およびガリウムシンチグラムにおける集積より炎症性病変と思われたものの、副腎髄質シンチグラムで集積が疑われ、また、副腎静脈よりの Sampling で高値が認められたため、褐色細胞腫も否定できず手術が施行された。手術の結果は、左傍副腎部の黄色肉芽腫であった。 ^{131}I -MIBG における集積の機序ははっきりしなかった。 ^{67}Ga シンチグラムは、CT, MR と共に病変を忠実に描出しており、炎症性腫瘍の診断に有用と思われた。

21. 肝胆道シンチグラフィが有用であったジアルジア症の一例

河野 真理 牧 正子 金谷 信一
小林 秀樹 池上 晴彦 寺田慎一郎
金谷 和子 日下部きよ子 (東女医大・放)

患者 (28 歳女性) は中国・ネパール等の渡航歴があり、帰国後、食事中または食後に心窩部痛を訴え来院。第 1 回入院時、胆道ジスキネジーと診断された。鎮痙剤を処方されて症状は軽減し退院したが、再度心窩部痛が出現し、第 2 回目入院となった。便および十二指腸液よりランブル鞭毛虫が検出され、ジアルジア症と診断された。肝胆道シンチグラフィでは肝の形態、肝への RI の集積程度やクリアランス、そして腸への移行時間に異常は認められなかった。しかし、胆嚢への集積は 6 時間後の像でもみられ、RI の排泄能は著明に延長していた。メトロニダゾールによるランブル鞭毛虫の治療後の胆道シンチグラフィでは、RI の排泄機能は改善され、正常パターンを呈していた。以上から胆道ジスキネジーの鑑別にジアルジア症を考慮する必要があることが示唆された。

22. Peritoneo-Pleural Communication の存在を疑われた 3 症例の核医学診断の経験

鈴木 謙三 鎌田 憲子 寺田 一志

(都立駒込病院・放)

肝硬変の患者において、5-10% に胸水貯溜を認め、その成因の一つに腹膜-胸腔交通路の形成が考えられる。シンチグラフィで交通を診断できた当院の 3 症例を報告する。症例はいずれも肝硬変患者で、右の大量胸水と呼吸困難を主訴とした。方法は、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HSAD 180-370 MBq を 50-100 ml の生理食塩水に希釈して腹腔内に注入し、経時的に撮像した。RI の胸水への移行の程度、時間は、症例によって異なった。交通路は臍中心に多いとされているが、その部位診断における SPECT の有用性は認められなかった。

胸腔鏡で交通孔を認め、縫合した症例が 1 例、胸膜癒着術を行った症例が 2 例で、胸水減少または消失の治療効果が得られた。

23. ^{67}Ga シンチグラフィで乳房に異常集積を認めた juvenile fibroadenoma の 1 例

福光 延吉 橋本 廣信 原田 潤太
(慈恵医大柏病院・放)
内山 眞幸 森 豊 (慈恵医大・放)

症例は、14 歳、女性。左乳腺の腫脹、疼痛を主訴として来院した。左乳房に巨大な腫瘍を触知した。Estrogen および Progesterone receptor はともに高値を示した。 ^{67}Ga シンチグラフィで左乳房に著明な異常集積を認めた。 ^{67}Ga の乳房集積例に、悪性腫瘍、乳汁分泌、薬剤連用などの報告があり、それらとの鑑別を要したが、他の画像所見、病理所見とともに検討し、juvenile fibroadenoma と診断した。

24. ^{131}I 摂取を認めず T_3 による TSH 抑制療法にて多発性肺転移巣の縮小を認めた分化型甲状腺癌の一例

小須田 茂 田村 泰治 佐藤 導直
新井 真二 草野 正一 (防衛医大・放)

症例は甲状腺乳頭腺癌術後の 28 歳女性で、多発性